

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.116		千俵蒔山(せんびょうまきやま)	生物地理区分		シイ・カシ萌芽林	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	長崎県	地形条件	1.山地	2.山麓部	○ 3.丘陵・台地
	市町村	対馬市		4.低地	5.その他	
	集落名称等	上県町佐護	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林
			10.その他			

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの ○：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国定公園	
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	観光パンフレット等に写真が使用されている、自然公園や景観保全のための地域指定がある

	
撮影時期：2008 年 3 月 写真の説明：約 40 年ぶりの野焼き	撮影時期：2008 年 7 月 写真の説明：野焼き後の草原 野焼きにより美しい草原景観が再生されつつある。

NO.116		千俵蒔山(せんびょうまきやま)		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	長崎県			2.団体・企業・学校等
	市町村	対馬市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	上県町佐護			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組 主体	主な主体の名称		佐護区
	その他の主体の名称		
目的 ●：主 ○：その他	○	4.野生動植物やその生息地の保全・管理	
		取組内容	野焼き、採草による草原環境の維持、再創出
	●	5.地域の良い景観の保全・修復	
		取組内容	かつては全山 100ha 以上が草原で、役牛馬の飼料採取を行っていたが、高度経済成長期を機に草原利用がなくなり、森林化し、現在は山頂付近の約 7ha が草原として残るのみ。結果として地域住民の原風景が失われるとともに、草原を活用した文化が失われ、ツシマヤマネコにとっても良好なえさ場環境が失われた。平成 20 年 3 月に約 40 年ぶりに野焼きが再開され、草原を維持するとともに、森林化した場所の草原再生の取り組みが始まった。
連携・協働による 取組内容・役割分担等			地元集落である佐護区が主体となり、原風景を取り戻すために野焼きを実施。対象地が国定公園であることから、対馬市、長崎県の協力を得ながら実施。環境省対馬野生生物保護センターはツシマヤマネコのえさ場環境として重要な草原を再生するために、この取り組みを支援。
取組の特徴や強調したい点			野焼きを通じて、佐護区内での地域コミュニティの結束力が強まってきている。今後は草原の草資源を有効活用するために、有機肥料の生産、畜産の振興（対州馬の放牧）などを検討し、地域の活性化につなげたい。

取組の概要	集落行事である野焼きを復活、地域固有種などの生息環境も保全	課題グループ ● 景観文化 ● 手法
事例の特性	伝統的な資源利用・管理手法の継承（草地）	
取組の中で他の地域の参考となる点	牛馬の飼料採取がなくなり森林化が進む草原で、地元集落が主体となり、原風景を取り戻すために行政の協力を得ながら野焼きを再開した。ツシマヤマネコのえさ場環境として重要な草原を再生するとの観点からも支援が行われている。	